

2018年4月20日

～がん治療と仕事の両立支援をさらに強化～ がんを経験した社員によるコミュニティの設立について

アフラック生命保険株式会社（代表取締役社長：古出 眞敏）は、社員のがん治療と仕事の両立に向けた支援（がん就労支援）をさらに強化すべく、がんを経験した社員によるコミュニティ「All Ribbons^{※1}」を設立しました。

当社では、すべての社員が長く、かつ自分らしく会社へ貢献できる環境を整えるために、これまでさまざまな制度の充実に努めてきましたが、今般、がんを経験した社員自らその貴重な経験を活かし、がん治療と仕事の両立に悩む社員のサポートや、がん就労支援に関する各種制度の充実に加え、新たな商品・サービスの開発支援などに取り組むことを目的として本コミュニティを立ち上げました。

「All Ribbons」の主な活動内容

社内公募によって集まった20～50代の13人（男性6人、女性7人）のがんを経験した社員で構成されており、以下の3つを柱としてがん就労支援に取り組んでいきます。

1. ピアサポート^{※2}

がん罹患時における「上司や同僚への伝え方」「キャリアへの影響」「社内制度の活用方法」などの不安や悩みに対して、“同じ会社の仲間”ゆえに理解し合える社員同士による支援—ピアサポート^{※2}—体制を構築し、自身のがん経験や治療と仕事の両立支援に関する体験談を公開するとともに、がん罹患した社員の相談対応^{※3}を行います。

2. 両立環境づくり

人事部と連携し、社員目線による制度の構築や運用の改善、がん就労支援に向けたより良い職場環境づくりのための社内啓発などがん就労支援に関する社内環境の充実に取り組みます。

3. ビジネス支援

がん治療の経験を活かし、より一層お客様のお役に立てる付加価値の高い商品・サービスの開発支援に取り組みます。

当社のブランドプロミスである「『生きる』を創る」は、お客様はもちろんのこと、当社で働く社員を含め広く社会に対しても共通する願いです。当社は、これからも社内外において「がん就労支援」に積極的に取り組み、誰もが安心して健やかに自分らしく生きる社会の実現に貢献していきます。

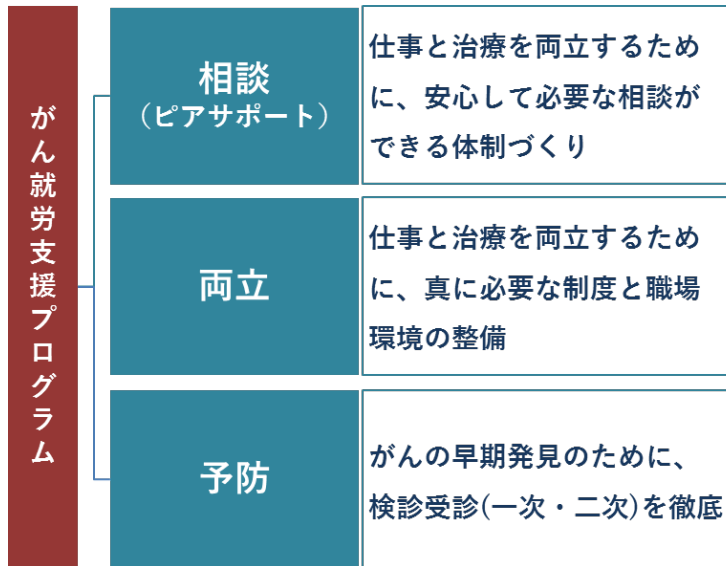
※1.「All Ribbons」は、さまざまな部位のがん啓発キャンペーンのシンボルマークで使用されている「リボン」と、がんを経験した多様なメンバーが集まり、ピアサポートの中心として活動していく決意を込めてコミュニティメンバー自らが命名しました。

※2.症状や悩みなどについて同じような立場にある仲間＝英語「peer」（ピア）＝が、自分の体験や行動、考えなどを披露し、互いに語り合い、支え合うことで回復を目指す取り組みを指します。

※3.社内サイトを開設し、相談対応は産業医と連携することで、互いに匿名で相談できる仕組みを構築

【アフラックの「がん就労支援プログラム」の3つの柱】

アフラックの「がん就労支援プログラム」では、「相談（ピアサポート）」「両立」「予防」を3つの柱として取り組んでいます。



【主な取り組み事例】

① 相談

- ・がんを経験した社員のコミュニティ「All Ribbons」を通じたピアサポート体制の整備
- ・経験者の事例に学ぶために「All Ribbons」メンバーの両立体験談を匿名で公開
- ・産業医・人事部による相談窓口の設置
- ・社外の相談窓口の設置（がん電話相談、心と体の健康相談 等）

② 両立

- ・「治療に専念するための制度」の整備（ストック休暇（積立年休）、傷病欠勤（最大1年）、療養休職（最大1年））
- ・「治療と仕事を両立するための制度」の整備
 - － “時間” の制約の解消のために
（フレックスタイム制度・シフト勤務・短時間勤務・1時間単位の有給休暇取得）
 - － “場所” の制約の解消のために
（在宅勤務、サテライトオフィス、iPadの付与 等）
- ・復職時、本人及び産業医・上司・人事部との面談を通じた「両立支援プラン」を策定
- ・「がん・傷病就労支援ハンドブック」を社員向けに配布
（がんをはじめとした傷病と仕事の両立について、相談窓口や利用できる制度、周囲のサポートのあり方などをまとめたハンドブック）
- ・アフラックの「がん就労支援」に関する情報をまとめた社内ポータルサイト

③ 予防

- ・社員のがん検診受診率向上・早期発見に向けた取り組みを実施（がん検診費用の無料化、乳がん検診は30歳以上が毎年受診可、子宮がん検診は35歳以上が毎年受診可 等）
- ・全社員に対して、がん検診の重要性やがん治療と仕事の両立に必要な情報など、がんに関する幅広い知識を身につけるためのe-ラーニングを実施